

外国語学習に大事なこと

経済学部 清水 伸子

0. 便利になって、ことば要らず？

留学すれば語学が上達すると思っている人は結構多いと思います。しかし本当にそうでしょうか？確かにその文化圏に身を置いて実際に体験するということは大事です。現地に行き初めて分かることも多いからです。しかし異文化体験や異文化理解は脇に置いて、語学習得に限るならば、最近、現地でもことばを使わなくても足りてしまうことが増えたと感じます。

例えば、私が毎年ロシアに行き来していた2000年前後のロシアは今よりもとても不便で、なんでもことばでやり取りする必要がありました。お店では、ショーケースの中に陳列されている品物をいちいち店員さんに言って取り出してもらわなければなりません。学食では、手書きのメニュー表をどうにか解読して豚肉料理の食券をレジで買ったのに、厨房カウンターで「豚肉は終わった」と売り切れ宣言をされたことなど数知れず、その度に他の料理をもらえるよう交渉しなければなりません。

しかし、このような状況はずいぶん前から現地でも遭遇しなくなりました。お店では直接買い物かごに品物を入れてレジに向かえばよくなり、学食では無言で料理を指させば料理を取り分けてくれて、レジの人がトレーの上の料理を見ながら計算して料金を表示してくれます。また、10年前まではタクシーを予約するためには電話で迎え来てほしい日時と場所と行き先を説明しなければなりませんでした。今ではタクシー配車アプリで一発解決です。

便利なのですが、ことばを発しなくても済んでしまうことが増えてきました。

1. Outputを重視するロシアの外国語教育

しかし、タロサック¹⁾をはじめとして、外国語学習についての動画をYoutubeにupしている人たちはOutputが重要であると言っています。喋るためには喋らないといけないのです。

そして、ロシアの語学教育では、ソビエト連邦(ソ連)時代から、Outputが非常に重視されてきました。ソ連は、社会主義国のリーダーとして留学生を受け入れ、ロシア語で高等教育を受けさせたのち、彼らを親ソビエト派エリートとして母国に返すことを国是としていました。そのため、語学教育方法はかなり確立されています。その手法は非常に効果が高いもので、私も、日本語を学習したロシア人が日本に留学した最初から日本語での日常会話には困らなかったと話すのを何度か聞いたことがあるほどです。

2. 喋ることに貪欲たれ！

このOutputを重視する外国語教育のせいか、ロシア人の積極さに私は何度か驚いたことがあります。彼らは学習していることばを使うことにとても貪欲なのです。

私は1990年代後半のモスクワで日本語を勉強している人たちの集まりに招待されたことがあります。それは40~50人の集まりで、年齢も小学生ぐらいから大人までバラバラでした。クイズをしたり日本の歌を歌ったりと和気あいあいとした会で、私はしばらく会の世話人の隣でただ座って見ていたのですが、「みんな楽しそうだけど、私が居ても居なくても関係ない？」と思い始めた頃(日本語おしゃべりタイム)が始まりました。要は、お互いに日本語で自己紹介しあいましょうというイベントなのですが、この時、多くの人が日本人である私と喋ろうと近寄ってきたのです。当然、1(私)vs大勢では話ができませんので、会の世話人がタイムキーパーとなって合図するまで2~3人のグ

1)「日本語が異常に上手い外国人に勉強法聞いたら有益すぎた」、「12ヶ国語を流ちょうに話す日本人に言語習得の極意を聞いてみたら凄すぎた」など、番組多数up.

ループで話すことになりました。会話の内容自体は「どこに住んでいますか?」「趣味は何ですか?」といったテッパンネタなのですが、みんなが結構流ちょうに日本語を喋るので驚いていると、グループ交代の合図がないまま、隣の人が会話に加わってきて、最後には私はそっちのけでロシア人同士が日本語で会話し続けていくではありませんか。ネイティブがいるのに何故?と、あっけにとられました。よく観察していると、彼らは、最初はネイティブに対して自分の日本語が通じるのかどうかを確かめようと私に話しかけてくるのですが、自分の日本語が私に通じると分かってくると、会話の目的がロシア人同士で日本語の流ちょうさの競い合いに変わっていくようなのです。私とはにこやかに「そうですか(ニコッリ)」と相槌を打ちながら会話をしていた人たちが、ロシア人同士だと少々早口になって、「負けません!」という勢いで日本語の応酬を始めるのです。まるでバトルのようでしたが、この貪欲さがないから私の会話力は伸びないんだと痛感しました。

3. ロシアでロシア語を喋ってガッカリされる

ロシア人の会話に対する積極さは2018年でも健在でした。この年の夏、私がモスクワの本屋で本を数冊買った時、レジのおばさんが「金額が大きいから、レシート持って中央カウンターで割引カードを発行してもらいなさい。次から安くなるから。」と声をかけてくれました。しかし、私は翌日にはモスクワを出る予定だったので、次に来るのはいつ?その時までカード有効?と考えて、返事に一寸間が空いたのがまずかった。レジのおばさんは、ロシア語が分からないのだと思って、「誰か、この人に割引カードのことを英語で説明してあげて!」と大声を張り上げたのです。そして、この2018年のロシアは、6月~7月にワールドカップが終わったばかりで、海外からの観光客をもてなそうと空前の英語ブーム真っ只中でした。レジから少し離

れたところにいた子供連れのお父さんがさっと近寄ってきて、時折詰まりながらも英語で説明し始めるではないですか。私はタイミングを完全に逸してしまったので、最後まで聞いてからロシア語で明日モスクワを離れることを告げると、「なんだ、あなた、ロシア語喋れたんだ」と言われ、レジのおばさんも英語で説明してくれた人も何やら嬉しそうではないのです。えっ?ここ、ガッカリするところ?自分で言うのもなんですが、ロシア語を喋る外国人ってレアだと思うのですが、それほど英語を喋りたかったんですか…(泣)。

4. とにかく日々の生活の中でOutput!

留学しないとその言語でOutputできないわけではありません。独り言やSNSで呟いてみたり、Siriやアレクサ、生成AIの言語設定を変えて質問してみるのもよいでしょう。

ただし、大事なことは、自分の好きなこと、身近なことを表現することから始めたほうがよいということです。興味のないテーマや自分の日常に関係ないことばや表現はすぐ忘れていきます。アナログですが、物の名前や使える一言を書いた付箋紙を部屋のあちこち貼っておいて、眼に入ったら声に出して言うのもとても有効です。ダヴァーイチェ, ナチニョーム!(さあ、始めましょう!)

